

式 辞

本日ここに、多数のご来賓ご臨席のもと、平成28年度卒業式を挙行できますことに心から感謝申し上げます。

ただいま卒業証書を授与された普通科57名、海洋開発科25名の皆さん、卒業おめでとう。また、これまで生徒たちをこの上ない愛情で支え、この日を待ち望んでこられた保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは今、様々な思い出とともに入学以来の3年間を振り返っていることと思います。皆さんが在籍したこの3年間、種市高校は東京大学海洋アライアンスセンターや八戸工業大学との間に海洋教育に関する連携協定を結ぶなど、外に向かって大きく飛躍する足がかりを築いてきました。内に目を向けても、それ以前にはなかった取り組みが見られました。現在、生徒会の諸君が毎朝昇降口に立ち挨拶運動を展開していますが、これはこの卒業生の代が中心となって始めたものです。また、今年度の生徒総会で採択された上、校舎の中にも掲示され生徒会誌の冒頭をも飾った「いじめ防止宣言」も卒業生諸君が企画立案したものです。いずれも新しい試みであり、生徒が主体的に推進したという点で高く評価されるものです。これらのことに前向きに取り組んだ皆さんを誇らしく思います。もちろん、国体での優勝など華々しい活躍で種市高校の名を高からしめてくれたことは校史に残る大きな誉れです。

さて、卒業後の皆さんの進む道はそれぞれですが、いずれ広い世界に出て行くこととなります。いかに情報社会が進化し、直接的な付き合いが簡略化されようとも、人は一人では生きてゆけません。まして震災以来、人と人との「絆」の大切さが叫ばれてきました。あらゆる場面でコミュニケーション能力の重要性が高まっています。そこで今日は、その「人との接し方」について、大事だと考えられる二つのことをお話しして私からの餞の言葉にしたいと思います。

一つ目は、「まずは己を知る」ということです。これはただ己を突き詰めるということではなく、他者との関係性の中で自分を知るということです。ロシアの文豪トルストイは次のように述べています。「自分の欠点をよく知る者だけが、他人の欠点に対しても正しく振る舞える」。自分のことを棚に上げて人の欠点ばかりあげつらっているはやがて誰からも相手にされなくなるでしょう。まずは己に不足する点はないか、自省する態度が大切です。『論語』の中では孔子の弟子である曾子が「我日に我が身を三省す」と言っています。自らの言動、行動に真摯に向き合うことで人間として成長できるのだということでしょう。また、近年心理学の世界で「メタ認知」という言葉がよく使われます。これは簡単に言えば「自分の思考や行動を客観的に認識すること」を意味しており、この能力が非常に大切であり必要でもあると言われています。実は私たち人間は自分のことが一番わからない。自分の言動が周囲にどのような影響をもたらしているのか、周囲は自分をどう捉えているのか、よく考えてみる必要があります。周囲との関係性の中で自分を客観視することで、自分本位な振る舞いは抑制され、周囲と調和することができると考えられます。

二つ目は「誠実に他者と向き合う」ということです。中国戦国時代の思想家、韓非の言葉の中に「巧詐は拙誠に如かず」というものがあります。いかに巧みな言葉で人と相対してもそこに策略が潜むのであれば、拙いながらも真心のこもった言動で人に接する方がずっとよい結果を生む、という解釈ができる金言です。人を騙す犯罪が目立つ昨今、嘘のない誠実な態度で人と接してこそ、本当の信頼関係が生まれ、大きな力となります。本校の校歌に「至誠天地を動かさん」という一節がありますが、まさにそのことを表しているのです。

以上、「人との接し方」について、自分自身をしっかりと把握すること、その上で誠実に人と接することが大切だということをお話ししました。卒業生の皆さんがこれから歩む道は様々ですが、どんな集団に属してもよい人間関係を築いてほしいものです。そしてこの種市高校で学んだ日々を誇りとして人生を送っていただきたい。皆さんの未来が栄えあるものとなるよう祈念して式辞といたします。

平成29年3月1日

岩手県立種市高等学校 校長 南館秀昭